

昭和十一年一月一日(毎月一回一日發行)

良政の路道

禁 轉 載

號 第一 卷八十第



鋪裝報國

舖

東京・丸之内

日本鋪道株式會社

社長 淺利三郎

東京・大阪・福岡・札幌・京城・台北・新嘉坡・横濱・名古屋・京都

正賀

混合用エマルビア施工順序

1 混合用エマルビア

2 混合用骨材(砂利)

3 混合

4 下層混合材線上

5 下層混合材敷均



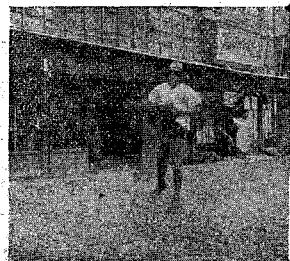
6 碎石撒布

7 輪壓(第一回)

8 封緘層
透入用エマルビア撒布

9 同上
碎石撒布

10 仕上輪壓



專賣特許

瀝青乳劑エマルビア

製造販賣及鋪裝工事請負

東京瀝材工業所

大倉土木株式會社

東京市京橋區銀座西三丁目一一番地碌々館

横濱市鶴見區音澤町一九五番地

仙臺市東七番町四三五番地

電氣油壓五、二九〇番

電話京橋自二一五〇至二一四九

道路の改良 第十八卷 第一號 目次 昭和十一年一月一日發行

口繪 親不知國道
(新潟縣)

卷頭言

論說

年頭の感
昭和十一年を迎ふ

道路改良會々長 水野鍊太郎(三)
内務省土木局長 廣瀬久忠(八)

研究

フランス道路法制史(六)

内務事務官 武若時一郎(二)

技術

土木工事用塗料の話(四)

内務技師 西川榮三(西)

ビチユマルス乳剤に依る土壤安定工法
利用の各種應用に就て

日本ビチユマルス會社 技師 松浦治郎(四)
奈良原輝雄(四)

史料科

江戸時代の道路を往く

渡部英三郎(五)

海外道路時事

渡部英三郎(五)

英國の自動車専用道路
西鐵筋混凝土條令の改正
支那將來の陸運
瑞西最南端のア

所長 工學博士 物部長穂(さ)



說苑

朝鮮の道路(五).....

拓務省技師三浦磐雄(玄).....
地方技師藤田宗光(△)

満洲國國道構造規準に就て

滿洲國々道局第一技術處長坂田昌亮(△)

親不知國道改良工事
道路並木伐採問題

内務技師高橋嘉一郎(△)
德崎香(○)

茨城縣下大手橋の新裝

茨城縣廳土木課(△)

判例 警見

田口二郎(△)
J T 生(△)

岐垣國道の改築成る

奈良縣廳土木課(△)

道路愛護普及會

内務技師宮本武之輔(△)

支那満洲警見記

内務博士(△)

關東・北陸・東海・近畿・中國・四國・九州の各地方

法 令

最近内務省に於ける路政關係行政處分例

K N 生(△)

地 方 通 信

法政春秋

我國民力は疲弊し行くか 其他

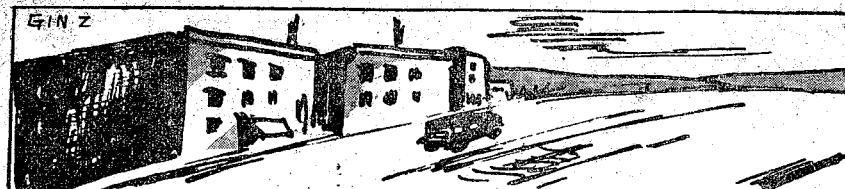
(△)

雜 報

附錄 任辭令
道路構造令並同細則改正案要項に就て

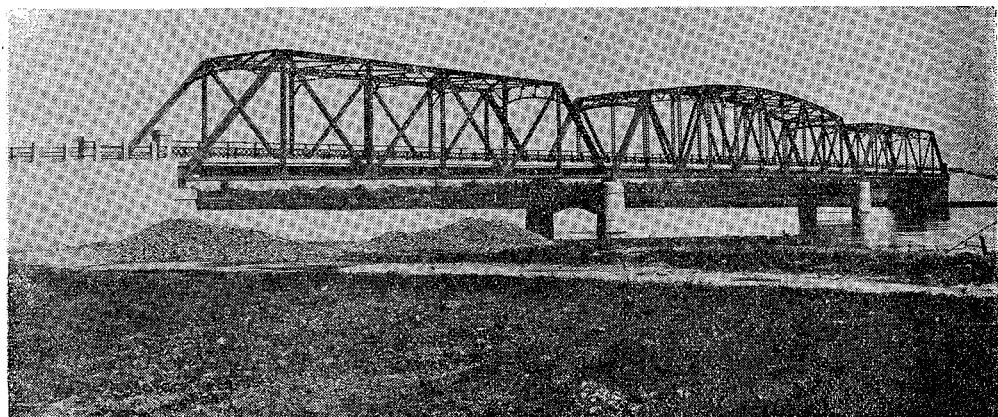
内務技師小澤久太郎

(△)

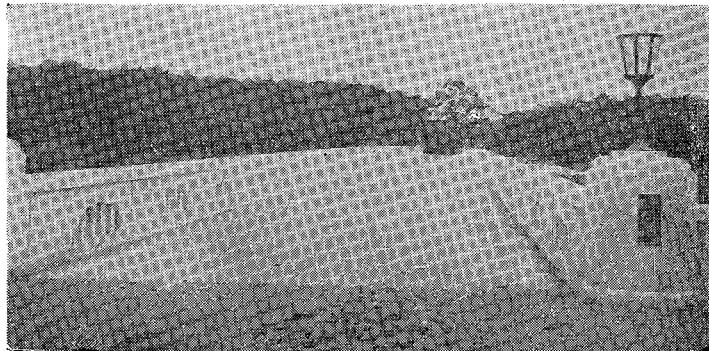


日立 アスファルト ブロック

賀 正



上、新潟縣本川橋
下、同 縣紫雲寺橋

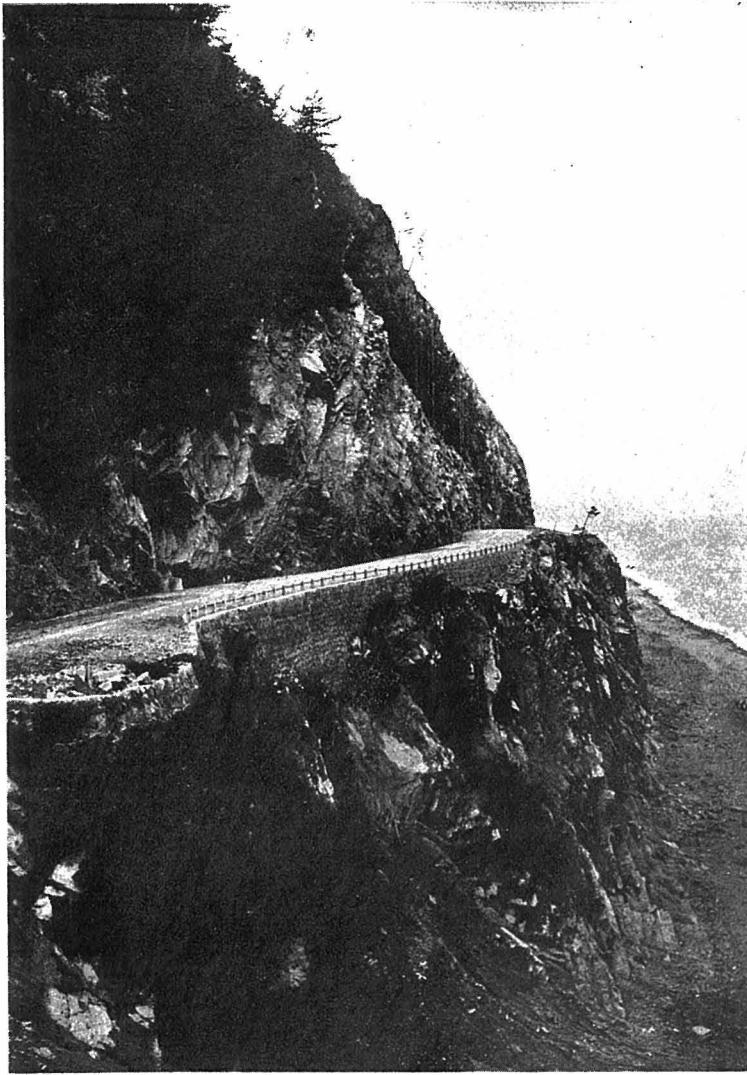


日本礦業株式會社

東京丸之内
電話丸之内(23)1241-7

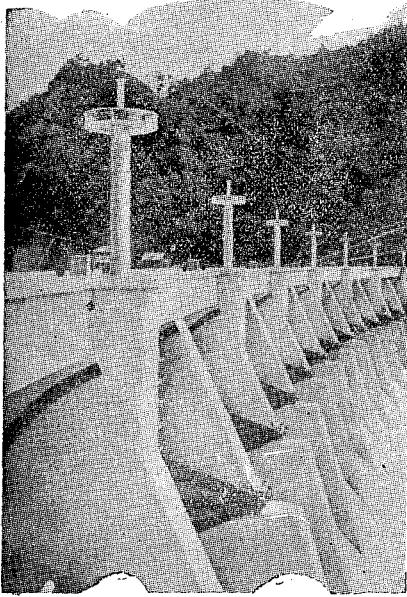
大阪中島
電話本局260-4

親不知國道新潟縣



正賀

新製品 低熱セメント發賣!!!



淺野マスコン・セメント
(ASANO MASCON CEMENT)

・特 色・

- (一)比重重ク、凝結遲キコト。
- (二)コンクリートノ容重重ク、密度大ナルコト。
- (三)粉末ノ表面積大ニシテ、コンクリートハプラスチック且ツウォーカブルナルコト。
- (四)發熱少ク、コンクリートノ溫度上界少キコト。
- (五)强度發熱比高ク、且ツ强度増進率ナルコト。
- (六)空中收縮少ク、且ツ耐侵蝕性ナルコト。

・用 途・

一般ニ厚キ塊コンクリート工事 (Mass-Concrete) ニテ、容積變化又ヘ不均齊應力ノ發生ヲ厭フモノ。(例、重力堰堤、砲壘、橋脚及ヒ機械基礎其他早期高強度ヲ要求セサルモノ、終局ノ硬化ノ低熱タルヲ要求スル工事)

淺野マスコン・セメントト米國 Boulder dam 用
低熱セメントトノ試驗比較 (18 °C)

種類	比重	粉末程度 cm ² /g	凝結		水和熱 (H) Cal/g		空中收縮率 mm/10mm	
			凝始	凝終	7日	28日	7日	28日
淺野マスコン・セメント	3.23	1430	5.22	7.14	53.9	75.0	6.1	7.8
米國低熱セメント	3.22	1330	3.17	5.25	52.3	72.3	6.9	10.0
		モルタル強度 (kg/cm ²)						
			1日	2日	3日	7日	28日	7日
		水量(%)	耐壓力 (C)				C/H	
淺野マスコン・セメント		7.0	81	196	303	434	659	8.1
米國低熱セメント		6.5	94	164	226	345	487	6.6
		抗張力 (T)						
							T/H	
淺野マスコン・セメント		6.8	11.5	21.8	31.1	35.1	41.3	6.5
米國低熱セメント		6.3	13.0	18.6	22.5	27.4	36.4	5.2

淺野セメント株式會社

東京市麹町區丸ノ内一ノ六 (海上ビル新館三階)

謹賀新年

昭和十一年一月一日

道路改良會

(理事 いろは順)

會長 水野 錄太郎

副會長 橋本 圭三郎

常務理事 廣瀬 久忠

同 山田 英太郎

理事 唐澤 俊樹

同 同 同 同 同

篠 正太郎

谷 口 三郎

塙 田 攻

中川 正左

長岡 隆一郎

同監同同同同同同同同同同同同同
事

矢野恒太郎 桐島像一郎 喜安健次郎 佐上信一郎 青山士一郎 牧穰七郎 前田彦三郎 松木幹一郎 山田乙三郎 潮惠之輔 中川吉輔

同同同同同同同同同同幹事

小島效督 谷口通松 鈴木雄一郎 近藤欣一郎 武若時一郎 岩澤忠恭 佐藤利恭 藤井眞透 三浦七郎 牧野雅樂之丞 新居善太郎 武井群嗣

謹 賀 新 年

祈會員諸彥之御健康

昭和十一年一月一日

「道路の改良」編輯員一同

賀

正

京城春川間

延長五里半の

道路がエムラスに依り

乳剤鋪裝施工中



エムラス道路工業株式會社

乳剤加熱鋪裝
エムラス販賣
一般土木工事

東京市向島區西端町西四丁目一四・電(三七)
正月二六三七

正賀

道 路 鋪 裝

東邦工業合資會社

(カタログ贈呈)

本社 東京赤坂青山北町四ノ一〇三
電話 青山四九七三・八一四八

工場 神奈川川崎市幸町三ノ六一二
福岡小倉市富野町下道田一四一三ノ二

營業所 名古屋市・京都市・大阪市
岡山市・廣島市・小倉市

營業科目

滲透用 漲青乳劑
混合用 製造販賣
各種鋪裝工事請負
一般土木建築工事請負

日本道路鋪裝株式會社

營業種目

瀝青乳劑鋪裝

瀝青加熱鋪裝

其他一般鋪裝

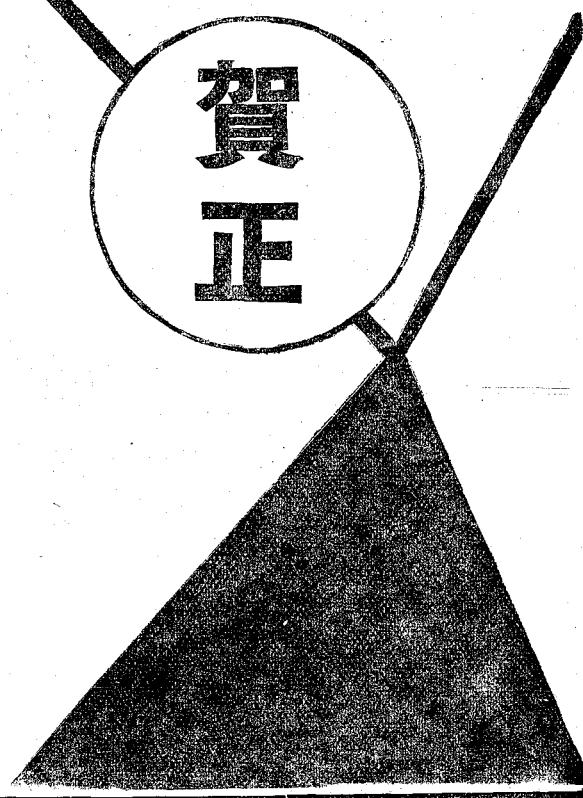
下水及道路

其他土木工事

各種アスファルト販賣

東京市麁町區丸ノ内二丁目二番地 丸ビル六階六〇二區

電話・丸ノ内(23)・長四八二九番・四九八二番



正賀

土木工事請負製造販賣



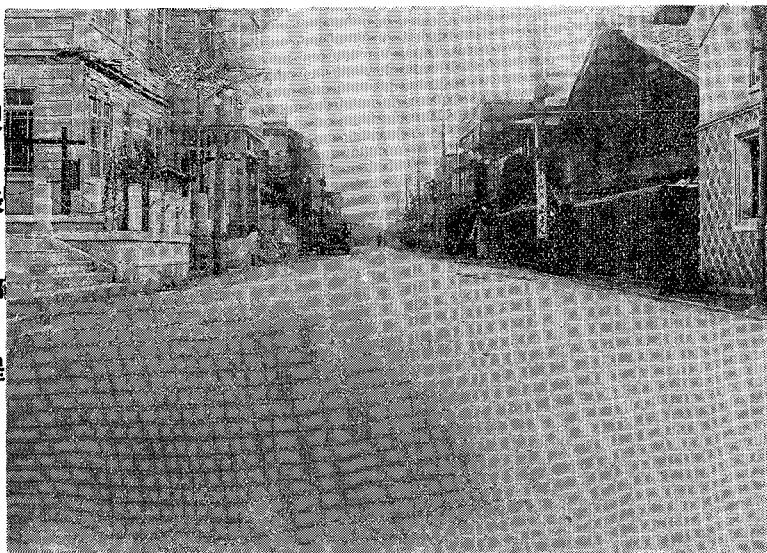
營業科目

土ネ混鑄各特ミア富ミ
木オ凝滓種許クス國クミ
工ソ土バアミニフ
事リ各ラスクリクエア耐
及デ種スラスクリクエア耐
種各チ加並ルア瀝スト
工造製種タ青イ工料塗
鋪ト品各及乳イ工料塗
工造製造碎一製製造
事及及石ル造製造
請販販販販販販
負責賣賣賣賣賣賣
新製品發賣(二)
(モンクリート防水用)
モルタル急結用
製造販賣

新製品發賣(一)
耐酸ペイント『富國塗料』
製造販賣

日本帝ソチヂリツ株式會社

型錄進呈



内ルビ倉片四地番二目丁三橋京區橋京市京東
七六一三至一六一三自一三三五(56)橋京話電

階二ルビ倉片地番十九目丁二濱北區東市阪大
二五三六至一五三六自八四〇三至六四〇三自局本話電

目丁九町通三市幡八話福岡縣電

本所張出所張出

長野縣諏訪郡岡谷驛前通り改修道路に於ける
ミクニ瀝青乳劑膠石鋪設施工ノ狀況

道路鋪裝

一般鋪裝
事請負

鈴木乳劑
販賣製造

專賣
特許



新年謹賀

東京市京橋區銀座四六丁目六番地
日本アスファルト乳剤株式會社
電話銀座一五八三四二二番

道路研究資料

第二輯 定價金六十錢

道路の設計工法並に計畫に就て

本篇は内務技師工學博士藤井眞透氏著作にして左の事項に就き記述せらる。

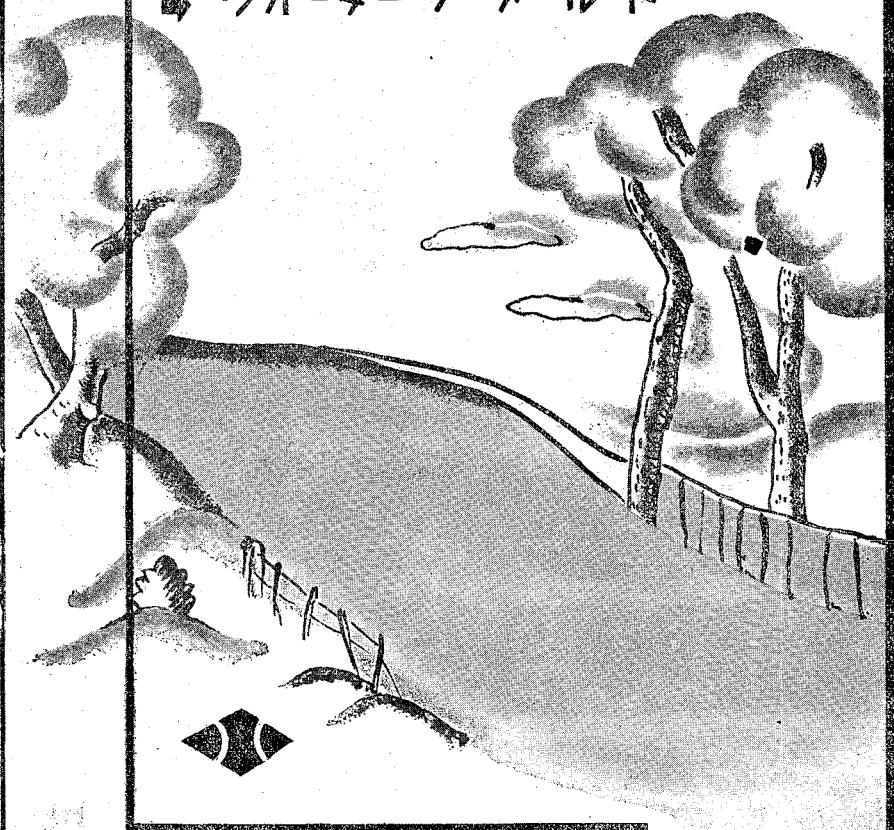
第一章 總說 • 第二章 滿洲國の道路の現狀 • 第三章 殖民地及未開地方の道路の計畫及工法 •
第四章 產業經濟の見地より見たる道路の總延長 • 第五章 道路系統の決定方法 • 第六章 路線の
形狀に就て • 第七章 路面の構造及工法に就て • 第八章 交通車輛の構造と路面の性質 • 第九章
道路改良の財源に就て • 第十章 道路と鐵道、空路との關係に就て 以上

發行所 道路改良會

正賀

川倉石油株式会社専属販売店

- ➡ ブローンアスファルト
- ➡ ストレートアスファルト
- ➡ ウオーターフアルト



南部商会

本店 東京市麹町区丸ノ内仲六号館 電話丸ノ内 1654
出張所 大阪市西区土佐堀大同生命ビル 電話土佐堀 5014
3118
4343

正賀



事工裝鋪路道トルアフスア

事工裝鋪トルアフーターオウ剤乳青瀝

販賣理代トルアフーターオウ トルアフスア倉小

販賣造製グソイフルヒサア

市工株式會社

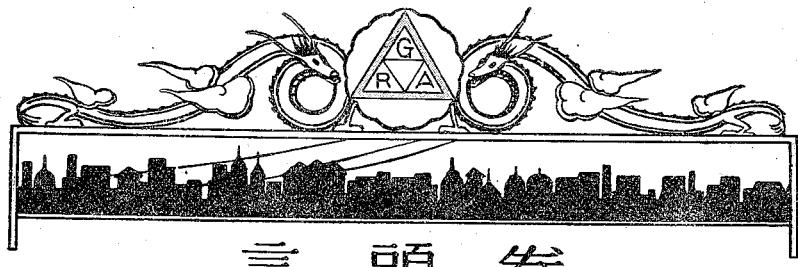
東京市橋本町一丁目二番地
電話二二六八番 (56) 橋京 話電

昭和十一年

道路の改良

一月一日

卷八十一
第第一號



言頭卷

昭和十年乙亥の歳を送つて茲に十一年丙子の春を迎ふることとなつた、地球は其の自轉を三百六十五回反覆し太陽を一周して、また客歳元旦と同位置に立ち戻つたのである。何の變哲もなく、不思議もなく、天體の運行が常道を辿つて斯くはなりたるものである。然るに古往今來人間は新年と稱して新なる心構へを持つて其の時に處する、實に天道は變化なくして而して變化なくしてあるものである。之れを仰ぎ觀て以て天地に參するに於て人道の變化を見るのは宇宙上の軌道である。新年と云ひ舊年と言ふも時計の鐘子の左右に一振搖したる一瞬間に於ての時の區分に過ぎない、其處に何の變化も見られないものである、されど一晉一晨の差を以て昨は過去となつた其の一ヶ年を回顧して觀るに於ては、其の一年間に何の變化も見られないものである。唯其處に何の變化も見られないものである、されど一晉一晨の差を以て昨は過去となつた其の一ヶ年を回顧して觀るに於ては、其の一年間に何の變化も見られないものである。

されど喜んだこと、悲しんだこと、得意がつたこと、失意がつたこととの事象が幾度か反覆されるのである。舊年の想はざるを得ない、而かも客歳のわれと今年のわれとは何等の變化がなゝいのである。舊年を送りて新年を迎へばとて唯一歳を加へたに過ぎないものである。年々歲々花相似たるか僞が歲々人々同じからざるのが眞か。

人は環境に依つて左右せらるるものである、科學的に哲學的に天文學的に合理的な理解が與へられても夫れに満足せず、更に何物かの示唆を受くるのが萬人共通の精神狀態である、故に改曆に直面して新なる心を以て新年を迎ふる心情をいだくのである、而して老壯男女の別なく年頭に際して來るべき一年間に大なり小なり何かの希望を屬する、勿論職業に依り、境遇に依り、賢愚に依り各様の思想をもつものである、吾人は、思ふ、各人其の感想を異にする處あるも舊年の經驗に鑑みて新年の規範又は警戒を得て、過去の失敗を再びせざる事に戒心を要することを、然り而してこの反省すべくまた邁進すべきことは何れの方面から視るも自己中心に墮し、部局偏重に陥つてはならぬ、法律が如何に完備しても科學が如何に進歩しても吾人は決して個人の力のみで生きることを許されないのである、國民として家族として夫として妻として親として子として自力のみに依存し得べきものでない。國防に於て直接戰線に立つ者も間接に關係する者も等しく國防に從ふものである、産業振興に於て生産者も消費者も其の關係者である、己あつて他あり、他あつて己あるが故に他を離ることなく複雜なる對他關係に關心して正義と仁愛と調和とを旨として此一年に善處すべきである、マルキズムもダグラスも、テクノクラシーも、も何かあらん、空虚と虚構と自己中心と戒心して年頭の第一歩を踏み出すことが新たに迎へたる新年を意義あることと信ずる。(沈民)